



The 62nd Annual Meeting of Japanese Society of Pediatric Allergy and Clinical Immunology

第62回 日本小児アレルギー学会学術大会

2025

10/4 土 12:40 ~ 13:30

第 5 会場 大阪国際会議場 会議室 1002

小児アトピー性皮膚炎におけるバイオマーカー ：SCCA2とTARCの活用と使い分けを考える



座 長

成田 雅美 先生

杏林大学医学部小児科学教室 教授

演 者

堀向 健太 先生

東京慈恵会医科大学葛飾医療センター小児科 講師

本セミナーは、整理券制です。

■配布場所：大阪国際会議場 5F ホワイエ 総合受付付近

■配布時間：当日 8:00～

※整理券はセミナー開始5分後に無効となりますので、ご注意ください。

共 催

第 62 回日本小児アレルギー学会学術大会

株式会社 シンテスト

小児アトピー性皮膚炎におけるバイオマーカー ：SCCA2とTARCの活用と使い分けを考える

東京慈恵会医科大学葛飾医療センター 堀向 健太 先生

【背景】

アトピー性皮膚炎(AD)の病勢評価における客観的指標の確立は長年の課題であった。近年、病態を分子レベルで捉える血清バイオマーカーの臨床応用が進み、中でも、Thymus and Activation-Regulated Chemokine (TARC/CCL17) と、Squamous Cell Carcinoma Antigen 2 (SCCA2) は、代表的なバイオマーカーとして注目されている。

【TARC の臨床的意義と限界】

TARC は Th2 細胞を遊走させるケモカインであり、その血清中濃度は AD の病態である Th2 優位の免疫応答を直接反映する。小児 AD 患者において健常者より有意に高値を示し、重症度と良好な正の相関を示すことが知られている。治療介入による臨床症状の改善に鋭敏に反応し低下するため、病勢モニタリングに有用である。しかし、基準値が年齢により変動するため年齢別の解釈が必要な点や、薬剤性過敏症症候群 (DIHS/DRESS) や新生児乳児食物蛋白胃腸症等で上昇しうる点に留意を要する。

【SCCA2 の有用性と理論的背景】

一方、血清 SCCA2 は IL-4/IL-13 シグナル伝達の下流分子であり、特に小児 AD においては TARC より信頼性が高いとされる。日本では 2021 年 2 月より小児 (15 歳以下) に健康保険の対象になっている。実際、小児 AD の重症度と強い正の相関を示し、TARC と異なり年齢による生理的変動が少ないため、単一のカットオフ値による評価が可能という利点を持つ。SCCA2 の低下は、TARC の低下よりも治療反応性をより強力に予測する指標となると報告されている (R^2 : SCCA2 0.48 vs TARC 0.16)。これは SCCA2 が治療標的の分子経路をより直接的に反映するためと考えられる。

このように、TARC と SCCA2 は AD の客観的評価に有用であるが、両者の特性を理解し、いかに使い分けるべきかについてのコンセンサスは確立されていない。そこで本講演では、これらの特性について最近我々が検討したデータも紹介しながら、小児 AD の個別化医療における SCCA2 と TARC の最適な活用法について考察する。